

## Q 頻尿で 外出もままなりません

4年ほど前から頻尿があります。夜間は多い時で5〜6回、1日平均では16回くらいトイレに行きます。車で35分ほどの娘の家に行く途中でトイレに寄ることもしばしばです。これまでに3度、医療機関を替えましたが、前立腺に異常はなく、膀胱炎もありません。好きなお茶も控えています。よい治療法はありませんか。

●72歳・男性 ●パーキンソン病の既往

## A

頻尿には大きく分けて次の3つのタイプがあり、鑑別することが必要

です。①1回に出る尿の量が少ないタイプ（膀胱機能障害）は、脳梗塞や脊髄損傷などの神経の病気や、尿意切迫感（突然、強い尿意を催し、トイレに駆け込む症状）を伴う「過活動膀胱」によって頻尿が起こります。②1回に出る尿の量が

多いタイプ（多尿）は、水分の摂取が多い、糖尿病、利尿薬の内服、加齢による腎機能やホルモンバランスの低下などによって頻尿が起こります。③尿が出切らず、常に膀胱内に尿が残っているタイプ（残尿）は、前立腺肥大症や糖尿病による神経障害（神経因性膀胱）によって頻尿が起こります。また、厚生労働省が指定難病に指定している「間質性膀胱炎」\*の鑑別も必要です。

ご質問者は、パーキンソン病にかかっているようです。詳しい病状がわからないので推測にすぎませんが、一般的にパーキンソン病の場合は、①のタイプの頻尿がみられることがあり、尿意切迫感や尿失禁が生じて頻尿の治療が難しくなることがあります。

尿意切迫感がある場合は過活動膀胱と診断され、抗コリン薬やβ<sub>3</sub>刺激薬などで治療します。過活動膀胱の治療薬を少なくとも12週間、継続的に使っても効果がみられない場合は、「難治性過活動膀胱」と診断されます。難治性過活動膀胱

「膀胱」と診断されます。難治性過活動膀胱の治療は専門医が行っても容易でないことが多いのですが、最近、2つの新しい治療法が保険適用になっています。

「ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法」は、内視鏡を使ってボツリヌス毒素を膀胱壁内に注射し、膀胱の筋肉を緩める治療です。\*「仙骨神経刺激療法」は、手術によって体内（お尻の皮膚の下）に電気刺激装置を植え込み、膀胱周囲を支配している仙骨神経に持続的に電気刺激を与える治療です。これらの治療を行っている医療機関は限られていますので、事前にホームページで確認するか、病院に直接問い合わせることをお勧めします。

小島祥敬 福島県立医科大学教授



こじま・よしゆき  
1995年名古屋市立大学医学部卒業。専門は泌尿器科、特に排尿障害の診断・治療、前立腺がんのロボット支援手術